



茨城県知事 橋本 昌

人が輝く 元気で住みよい いばらきづくり

一 県づくりの方向

未曾有の経済危機と地域間格差が拡大する中、茨城県の発展を図っていくため、雇用の場を確保する産業大県づくりや交流拠点づくりを強力に推進しています。

本県には、つくば、日立など最先端の科学技術や高度なものづくり産業が集積し、昨年十二月に稼働した世界最先端の大強度陽子加速器「J-PARC」など、世界の技術革新をリードする基盤や、陸・海・空の広域交通ネットワークの整備が着々と進んでいます。

今後、これらの優位性を一層活用して、産業振興や企業誘致に努め、その活力を福祉・医療や生活環境の充実に生かすとともに、次代のいばらきを担う人材を育成し、「人が輝く 元気で住みよい いばらき」づくりに全力で取り組んでいきます。

二 平成二十一年度県政運営の基本方針

(一) 改革の推進

本県では、私が知事に就任した平成五年度以降、一般行政部門で約千四百人（▲二〇・〇％）、教育部門で約二千百人（▲八・三％）の定員を削減するとともに、本年度は約三十年ぶりとなる出先機関の抜本的な再編を実施しました。しかしながら、財政が一層厳しさを増していることから、新たに第五次行財政改革大綱を策定し、出資団体改革、県税徴収率の向上や収入未済額の縮減、全事務事業の見直し、職員数の削減、さらには職員の意識・行動を変える県庁改革など、あらゆる手段を講じて行財政改革を進めていきます。

(二) 「活力あるいばらき」づくり

現在の厳しい地域経済情勢の下、経済・雇

用対策を最重点課題とし、道路・橋梁等の身近な生活インフラの整備や学校施設の耐震補強工事等を可能な限り前倒しや追加するとともに、教育・福祉・介護・医療などの分野で、資格取得等の研修とあわせ、正規雇用、キャリアアジェンジにつながる雇用・研修一体型事業などに取り組み、約二千人の雇用創出を図ってまいります。

来年三月開港予定の茨城空港については、韓国のアシアナ航空の就航が決まっておりますが、今後ローコストキャリア等に対応する首都圏第三空港として、さらなる就航路線の確保に努めていきます。

高速道路ネットワークも、昨年十二月に北関東自動車道の県内全区間が、本年三月には首都圏中央連絡自動車道が稲敷ICまでそれぞれ開通するなど、着々と整備が進められています。

農業産出額全国第三位である農業分野では、食の安心・安全を支え、消費者のベストパートナーとなるため、農業者の意識改革、マーケティング戦略に基づく産地育成などの「茨城農業改革」を進めるとともに、米・米粉の消費拡大や飼料用稲などの生産拡大、さらには、環境保全活動と環境にやさしい営農活動に地域ぐるみで取り組む「エコ農業茨城」を推進してまいります。

(三) 「住みよいいばらき」づくり

県内の医師不足の状況は大変深刻なことから、本年四月には筑波大学に五人、来年度からは東京医科大学に三人の地域枠を創設します。また、両大学に寄附講座を開設し、県内医師不足地域における医師の確保・定着を図るほか、救急医療機関での救急勤務手当や産科医等への分娩手当に対する助成、院内助産所や助産師外来の施設整備等

に対する助成など、医療体制の整備・充実

に努めていきます。
また、少子化対策としては、保育所や放課後児童クラブなどの整備を進めるとともに、中小企業の事業所内託児施設整備への助成制度を創設します。また、いばらき出会いサポートセンターを中心に、結婚相談やふれあいパーティーの開催などに取り組み、四月末現在で成婚数が二百九十二組と成果をあげておりますが、今後さらに、各方面との連携を図りながら、「婚活」支援を進めていきます。

環境対策については、エコドライブの普及など地球温暖化対策を推進するほか、森林湖沼環境税を活用し森林保全や霞ヶ浦等の水質改善に向け幅広い事業に取り組んでいきます。

(四) 「人が輝くいばらき」づくり

将来の茨城を担う人材の育成のため、本年度から、小学四年生の全学級を対象として、四則計算など基礎的な計算力の定着を図る個別指導を夏休みに行うとともに、小学校五、六年生の外国語活動を、すべての公立小学校で先行実施するなど、学力向上に取り組めます。また、少子化に対応するため、教職員の重点配置やスクールバスへの支援などを講じながら公立小中学校の統合、規模の適正化を積極的に進めていきます。

さらに、本年七月に「第二十回国際生物学オリンピック」、十月には「技能五輪・アビリンピックいばらき大会2009」を開催します。これらの大会を通じ、科学技術創造立県・産業大県づくりを支える人材の育成につながることを期待しています。